

雪道走行時の危険 「急」を避ける慎重な運転を心がけましょう

本格的な冬シーズンに入り、特に気をつけたいのが雪道走行時における安全運転への配慮です。雪道での事故を防止するためには、出発前の万全な準備やゆとりを持った運転が大切になってきます。



雪道走行 **スリップ事故が多発**

速度を落とし
慎重な運転を

出発前には気象情報と携行品を確認 タイヤチェーンは装着の事前練習を

出発前に運行地域の気象情報を収集し、降雪や積雪に対する準備をしておくことは、スリップなどによる交通事故防止のために欠かせません。さらにその地域における例年の初雪時期を確認しておくことで、余裕を持ってタイヤ交換など冬対策の準備ができます。また冬季の走行において、タイヤチェーンは必需品です。必ずタイヤのサイズに合ったものを選び、事前に説明書に従って装着の練習をしておきましょう。その他、雪道走行時に欠かせない携行品も確認しておきましょう。



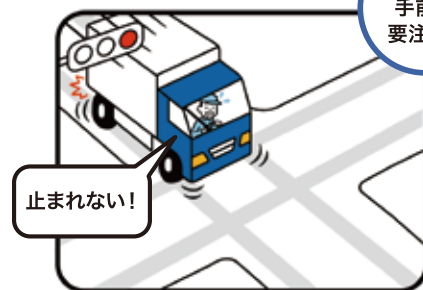
「急」のつく運転は回避 (急ブレーキ、急ハンドル、急発進、急加速)

積雪路面で停止しようとしてブレーキを強く踏み込むと、スリップやスピンを招き危険が増します。またトレーラーの場合は、ジャックナイフ現象などが発生するおそれも。そのような危険の原因となる「急」ブレーキや「急」ハンドル、「急」発進、「急」加速など「急」のつく運転を避け、車間距離を十分にとり、交差点付近やカーブではもちろん、直線道路でも注意して走行しましょう。



特に滑りやすい「交差点手前」

発進、停止の繰り返しで雪が踏み固められている「交差点手前」は、とても滑りやすく危険です。交差点手前で停止できずに赤信号で交差点に進入したり、停止している車両に追突したりするなどの事故が発生しています。特に信号が黄色に変わった時は要注意です。乾燥路面と同じ感覚で停止しようとしても圧雪路面では止まれません。交差点手前では早めの減速を心がけましょう。



凍結しやすい時間帯・場所を走る時は 十分に注意

凍結路面は積雪路面より滑りやすく、ブレーキやハンドル操作のわずかなミスでもスリップを招く危険があります。さらに凍結路面は発見が遅れがちになるため、気温の下がる深夜から早朝にかけて、また雨が降った後などは路面の状態に十分に注意して走行しましょう。特に凍結しやすい場所は、「トンネルの出入口」「日陰部分」「橋の上」「切り通し」などになります。

地吹雪が発生したら、 慌てず安全な場所に避難

積雪路面では、地面に積もった雪を吹き上げる地吹雪により、周囲がほとんど見えなくなる「ホワイトアウト現象」が起こりやすくなります。万一地吹雪に見舞われた場合は、慌てずハザードランプを点灯させスピードを落とし、状況が収まるまで待ちましょう。



降雪時・積雪時における安全運転のポイント

- 気象情報は出発前に必ず確認
- タイヤチェーン装着の事前練習や雪道走行時の携行品も忘れずに
- 積雪・凍結路面では「急」がつかない、ゆとりのある運転を
- 滑りやすい「交差点手前」や凍結しやすい「トンネルの出入口」などは特に運転に注意
- 「ホワイトアウト現象」が発生したら、慌てず安全な場所に避難
- 雪道走行時は車間距離を十分にとり、心にゆとりを持った運転を

日野自動車は、安全装備で事故の未然防止に貢献

〈VSC※(車両安定制御システム)〉

滑りやすい路面やカーブでの事故の抑制に貢献。

カーブでの車線からはみ出し(ドリフトアウト)や横転、滑りやすい路面でのスリップやスピンの、トラクターで起きるジャックナイフなどの抑制に寄与するため、警報音、エンジン出力制御、ブレーキングにより、ドライバーの危険回避操作をサポート。精神的、肉体的な負担の軽減に貢献します。

※VSCはトヨタ自動車(株)の商標です。

*車両の速度がVSCの制御の限界を超えているとき、横荷の積み方が適正でない時、また道路状況、天候状態などによってはVSCが作動しなかったり、作動してもその効果が十分に得られない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

